

8月4日、大石川（下川口
地内）を会場に親子かじかとりまつりが開催され、県内外から約200人の親子が参加しました。主催は、村観光協会と新潟総合テレビ（NST）。7月末に開催のはずが、悪天候により一週間延期となったものの、遠くは関東から参加した家族もあるほど人気のイベントで、当日は約1600匹のかじかを放流したほか、宝探しゲームや魚のつかみどりなどさまざまな催しが行われました。

また、幼児にもかじかとりを体験してもらいたいと荒川漁業協同組合（中倉虎治組合長）がかじかを提供。川辺に設置されたプールでかじかとりを体験しました。新潟市から家族4人で参加した坂井正範さんは「かじかとりは人生で初めての体験です。子どもが4歳になったので、川で魚とりをさせてあげたかった。今日は子どもの面倒を見る余裕もないくらい、自分が夢中になっています」と楽しんでいました。

せきかわの夏を満喫！ 大勢の家族連れでにぎわう 親子かじかとりまつり



下関の齋藤家（旧齋藤医院）から 食器が寄贈されました

このたび、下関にお住まいだった齋藤花枝さん（現在は長岡市在住）から村に食器の一部が寄贈されました。この食器は、お盆や下関まつりのお客様用に使用したり、医院を営んでいた頃には住み込みの看護婦や運転手、お手伝いさんとの食事に使用したりしていたもの。

いつも大家族で数も10枚はそろっていることから、東桂苑などで使っていただけるのではないかと寄贈されたもので、食器は有田焼の皿のほかに、小皿が数種類など約200点にのぼります。

寄贈していただいた食器は大切に村で保管し、毎年秋に開催される「食地」や「ごつつおまつり」、「わらびとりパック」などのイベントで使用させていただく予定です。



▲色鮮やかなほおずきの絵が描かれているそろいの食器



「えちごせきかわ観光大使」に 丸紅グループの関川沙綾さん

このたび、丸紅株式会社（本社・東京）に勤務している関川沙綾さんが「えちごせきかわ観光大使」に任命され、平田大六村長から委嘱状が手渡されました。これは、村観光協会が観光面での認知度アップを目的に各企業の「関川さん」に観光大使になってもらいたいとすすめているもので、今回、以前からイベントなどを通して関わりがあった丸紅グループへ呼びかけたもの。

観光大使に任命された関川さんは「関川村の大ファンになったので、必ず家族や友人を連れていきたいと思っています。また、社内の多くの人にPRして一人でも多くの人が関川村を訪れてくれるよう頑張ります」と話していました。

村観光協会では今後も観光PRの一環として各企業に呼びかけていく予定です。

関川中学校から大舞台へ!

瀬賀百花さん(ゴルフ)小池陽菜さん(柔道)高橋 孟さん(柔道) 国体・全国大会・北信越大会に出場

このたび、関川中学校から秋の国体に出場する瀬賀百花さん(下関)、全国大会に出場した小池陽菜さん(下関)、北信越大会に出場した高橋孟さん(下関)が平田大六村長を訪れ、結果報告及び激励を受けました。



高橋 孟さん
(3年・下関)

県大会は見事準優勝！ 北信越大会でも健闘！

7月に行われた県大会で見事準優勝に輝き、北信越大会への出場を決めました。北信越大会では健闘したものの惜しくも準々決勝で敗退。結果は5位でした。

高橋さんは「北信越大会では悔いが残る結果となってしまいました。高校でも柔道を続けるので、悔いの残らないようがんばりたい」と話していました。



小池 陽菜さん
(3年・下関)

県大会優勝&北信越大会準優勝 そして全国大会でも健闘！

7月に行われた県大会で見事優勝を勝ち取り、全国大会への出場を決めました。

8月20日、三重県で行われた全国大会では惜しくも2回戦敗退。大会を振り返り、小池さんは「結果を残すことはできませんでしたが、これからも柔道を続け全国の舞台でも活躍できる選手になりたいです」と話していました。



瀬賀 百花さん
(3年・下関)

東京国体県代表選手に選出！ 大舞台での活躍に期待

9月28日に開会する東京国体。このたび、中学生の瀬賀さんがゴルフ女子の部県代表選手3人のうちの1人に選ばれました。

先日、埼玉県で開催された日本ジュニアゴルフ選手権にも出場し活躍した瀬賀さんは「県代表として、一打一打を大切にしながらチーム全員で頑張りたい」と試合への意気込みを話していました。

国際ボランティア学生協会 IVUSA が来村して今年で10年目。これまでの感謝の意を込めて、村に少しでも恩返しをしたいと IVUSA が計画したのが「孫の手ボランティア」。このたび、ボランティアアニーズを回収しようとする8人の学生が2回に分けて来村しました。

8月5日から9日まで訪れた最初のグループは、各集落の「地域の茶の間」などに参加。地元の高齢者や子どもたち、地域のボランティアなどと意見交換を行いながらニーズを見出しました。

滞在中、自転車で村内を駆けまわった学生たち。たくさんの方の声を聞く中で、高齢者の家や集落センターの掃除、一人暮らし高齢者の話し相手、子守りなどのニーズを持ち帰ることができました。

IVUSA 学生の松浦奈々さん(法政大学3年)は「私たちが出来ることは限られているかもしれませんが、村の方々に若さとパワーを届けられるように一生懸命頑張りたい」と話していました。

村内かけまわり 孫の手ボランティア ニーズ回収大作戦!

国際ボランティア学生協会 IVUSA

